

- ・福祉講話 : 後屋敷小学校「視覚障がいについて」
加納岩小学校「聴覚障がいについて」

(2) 話合と指導助言

- ・コロナ禍の影響で、多くの学校が昨年のような活動をする事ができなかったが、規模の縮小や方法を変えることで活動する様子が見えた。
- ・「お弁当の日」や児童会、生活科等の取組は、いくつかの学校で共通して実施しており、お互いの情報交換や来年度の取組方法について、多くの意見が出された。
- ・福祉講和については、講師の確保が話題にあがった。本部会での情報共有により、人材を広げることができた。
- ・児童の感想について、授業の前後で変容を看取ることができると良い。「みんなのしあわせ」によせて、自分にとってどうだったのか、どんな満足感があったのかを考えさせる。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 今年度新たな試みとして、昨年度の課題にあがっていた資料を集め、再度見直しをする中で分野、行事、内容等のカテゴリーに整理し、成果物として残すことができたことは良かった。どんな資料があるのか知ることができ、自校の実践に活用できた。
- (2) 各校、先生方の実践、日常の取り組み、学級経営等、今の状況の中でできる実践を持ち寄り、とても参考になった。様々な領域にわたって「福祉」の授業や取り組みを実践できることを学んだ。
- (3) 研究を広げ、地域各校の活用に生かすことができ、大きな成果になった。
- (4) 各学校の実践を通して、学校や地域、児童の様子等も知ることができた。また、自分の学級においてもすぐ実践できるものが多くとても参考になった。今後の取り組みに生かしていきたい。
- (5) 各校の実践の中に、子供の感想や反応について書かれており、とても参考になった。

2 課題

- (1) 成果物を積極的に活用していくために、どのように取り組んでいくか。部会員だけにとどまらず、各校全体に紹介していきたい。
- (2) 外部人材との交流があつての「福祉」であり、コロナの下他学年とさえもふれあえない中での研究は大変だったように思う。
- (3) 子どもたちの心の成長にとっても大事な実践例などがたくさんあるが、時間の確保が難しい。
- (4) ウィズコロナとしての学校行事や福祉教育のあり方について、小規模校と大規模校、都市部と山間部等、それぞれの実態に合わせた対応や実践例を出し合い、研究していくことが必要かと思われる。
- (5) 中学校での実践や様子が分からないので、中学校の先生にも本部会に入っていたきたい。

3 成果物

(1) 実践事例集

(2) 実践報告学習会で報告された実践

(部長 堀内 美紀)